

第10回スポーツ協会杯「絆」少年サッカー大会 競技規則

競技規則

(公財)日本サッカー協会競技規則2022/2023による。

但し「8人制サッカールールと審判法」の適用に当たっては以下の修正を加え今大会規則として定める。

1. 競技のフィールド

- (1) 大きさ; 68m×50mを基本とするが、試合会場により修正は可。少年用ゴールを使用。
- (2) ペナルティーエリア 12m ペナルティーマーク 8m
ペナルティーアーク半径 7m ゴールエリアの縦 4m
センターサークル半径 7m
- (3) 交代ゾーンは、自由な選手交代のため、ベンチ側のタッチラインのハーフウェー6mの交代ゾーンを設ける。(ラインを挟んで3mずつ)

2. 試合球は、JFA検定4号ボールとする。(両チーム持寄り)

3. リーグ戦の順位決定は(勝ち; 3点、引分け; 1点、負け; 0点)による。

- (1) 勝ち点が高点の場合は得失点差→総得点→対戦成績の順で決定する。
それでも決定しない場合はPK戦(3人制)により決定する。
- (2) トーナメント戦での引き分けは、PK戦(3人制)により勝利チームを決定する。
- (3) 決勝戦については、5分-5分の延長、その後はPK戦(3人制)により決定する。
- (4) 相手チームが棄権・失格の場合は、勝ち点; 3点、試合結果は5-0とする。

4. 競技者の数及び交代

- (1) 8人(内1人はGK)を基本とする。
- (2) 交代要員及び交代の最大人数は8名とし、交代して退いた競技者は交代要員となり、再び出場する事が出来る。交代の回数は制限されない。
- (3) 交代の手続き
 - ・交代して退く競技者は、交代ゾーンからフィールド外に出る。
 - ・交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り競技者となる。
 - ・交代はボールインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行う事が出来る。
(交代で退く競技者が負傷している場合は、主審の許可を得て何処からフィールドを離れても良い)
 - ・交代について、主審・第4の審判の承諾を得る必要はない。
 - ・GKは、事前に主審に通知した上で試合の停止中に入れ替わる事が出来る。

※8人制サッカー競技規則の修正点

- ・交代して退くゴールキーパーは、境界線の最も近い地点から出なければならない。
(代わりに入るゴールキーパーは、ハーフウェーラインのところからフィールドに入る)
- ・ゴールキーパーとフィールドプレーヤーの入れ替えは、アウトオブプレーになった時に、主審に通知し主審の許可を得て入れ替えを行う。

- (4) 試合の成立の競技者の人数は、6名とする。

5. 競技者の用具

- (1) ユニフォーム(シャツ、パンツ、ストッキング)は正副2着用意する。
- (2) 競技者は靴を履く必要がある。但し、スパイクは固定式としスネ当てを着用する。
- (3) 競技者、交代要員の用具は審判により検査し服装については主審が安全であると判断した物は着用できる。

6. 審判

- (1) 主審1名、副審2名、第4の審判1名の4名で、試合が運営される。
- (2) 審判員は、審判服と審判ワッペンを必ず着用する。
- (3) 必ず審判員2名を帯同し、審判員がいないチームの参加は認めない。
棄権の場合でも審判員2名を派遣すること。
- (4) 審判員の打ち合わせは担当試合前に行うこと。
- (5) 主審は試合終了後、審判報告書を作成し会場責任者に提出する。
- (6) ベンチ内及び、ピッチ内練習の時の指導者は、審判服着用での指導は厳禁とする。
- (7) 予選リーグでは試合の無いチームが審判を行う。トーナメントは奇数試合の審判は偶数試合の両チームが前の試合を、偶数試合は奇数試合の両チームが後の試合の審判をそれぞれ行う。
決勝戦については準決勝で敗退したチームが行う。

7. 試合時間

- (1) 試合時間30分(前後半15分) ハーフタイム5分とする。

8. プレーの再開・開始

- (1) キックオフからの直接ゴールの得点は認められず、相手のゴールキックで再開。

9. ファウルと不正行為

- (1) 競技者が退場を命じられた場合、チーム交代要員の中から競技者を補充できる。
- (2) 累積警告2回は、次の1試合を出場停止とする。
- (3) 退場の場合は次の1試合を出場停止、その後の処置については大会主催の裁定による。
- (4) ベンチの行き過ぎた言動については懲戒処分にする。